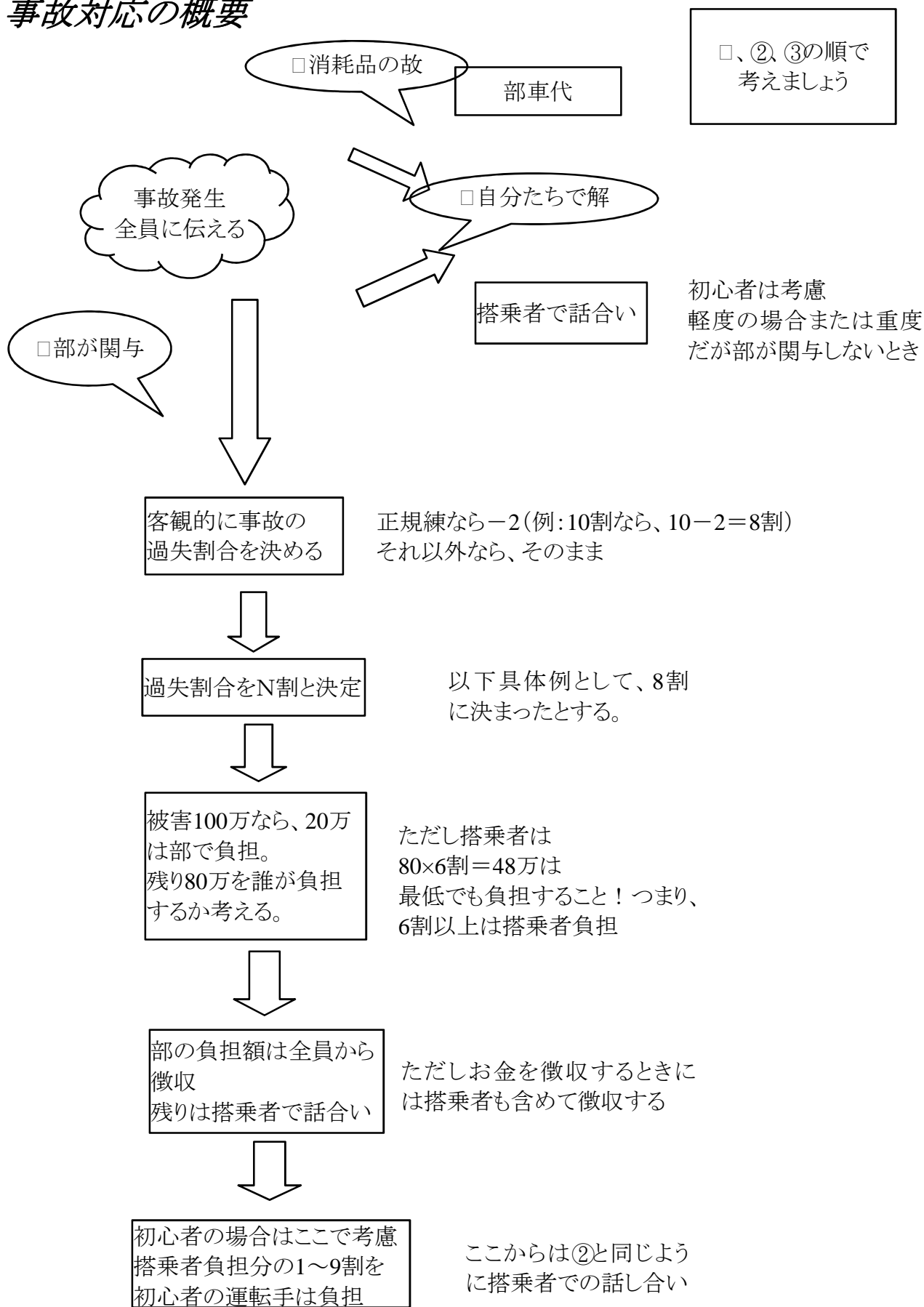


事故対応の概要



事故対応の詳細

事故が起きた場合(小さい事故だとしても)はきちんと全員に知らせること

- 1、部が関与するかしないかの判断
- 2、初心者について
- 3、過失割合について
- 4、補償するものの基準について

- 1、部が関与するかしないかの判断

本人に過失のない、消耗品の故障の場合は①へ

軽度の事故の場合は②へ

重度の事故で自分で解決したくてそれが可能という場合は②へ

重度の事故で部に助けてもらいたい、自分では解決不可能の場合は③へ

重度の事故という判断は高額(だいたい15万円以上が目安)なもの
部に助けてもらいたい場合はその旨を全員に伝えること

- 2、初心者について

免許取得から半年を基準にする。

搭乗者が負担する額のうち1～9割はその他の搭乗者に援助してもらえる。ただしこの額は、日頃の行いや運転に対する姿勢などから主に援助する側が決定する。運転する前に助手席の人に自分が初心者であることを伝え、アドバイスをしてもらうよう頼むことが大切。

また、半年を経過していても運転技術に自身のない場合も含めるが、その場合は特に運転の前に助手席の人に伝えること。

- 3、過失割合について

居眠りやわき見など、ほとんどの事故において過失10割だと思われるが、事故の説明をしっかりとし全員で決める。ただ、保険会社や警察が関与するときはその意見を主に尊重する。

正規練など運転が強制される場面では、そこからさらに2を引いた数字を最終的な過失割合とする。

- 4、補償するものの基準について

基本的には損失を取り戻すのに必要な金額で考える。例えば、タイヤをパンクさせてしまったのならそのタイヤがもともと古いものだったとしても新品を買うしかない場合はその新品の値段を払う。

※車を購入するケースについて

車体価格以外にも税金、手続き費用、キャリア代などお金がかかる。そのうち保険代以外のすべてを合計して考える。